

マネジメントコース研修生のつぶやき

編集者注：このコンテンツは、マネジメントコース(※)の研修生が持ち回りで担当し、それぞれの所感等を述べたものです。

※ 自治大学校における一年間の研修であり、研修期間中の概ね半分は自治大学校における実務に参画し、もう半分は通常の研修(第1部課程等)を履修することにより、実践的に高度の政策形成能力及び行政管理能力の向上を図るもの。

4月末に当原稿を執筆しており、赴任から1ヶ月が過ぎようとしているところです。赴任時には、咲いていた桜の花びらも散り、新緑の季節となりました。

自治大学校派遣の話をもっと最初にいただいたときは、驚きとともに不安でいっぱいでした(正直、自治大学校が具体的にどんなことをしているのか全く知りませんでした)が、自治大学校職員の方々、他自治体から派遣されている特別研修生に助けていただいているおかげで、不安なく過ごすことができます。

私は10月から通常の研修(第1部課程等)を履修するスケジュールになっており、しばらくは自治大学校の業務を行うことになっています。具体的には、自治大学校からの情報発信、人材育成担当部局幹部セミナーの企画・運営などを担当しております。情報発信のネタ探しやセミナーの企画のため、書籍や雑誌の記事を読むことが多く、これまでの業務で目にしなかった学者の論説や自治体の事例に触れることができ、勉強になっています。読んだ方、受けた方にとって、意味のある情報発信、セミナーの企画・運営を行っていきたいです。

また、自治大学校での生活では、(当然、)自治大学校職員の方々や他の特別研修生と接する機会が多く、自分の派遣元と同じところ、異なるところを知ることができており、日々よい刺激を受けています。

(余談ですが、総務省のパソコンはパスワードではなく、指紋で認証すること、スマートフォンで職場のPCのメールやイントラネットの情報を見られること、に驚きました。ささいなことですが、総務省(国の省庁はすべて同じシステムかもしれない)のセキュリティ対策及びデジタル化は進んでいると感じました。)

未だ、新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、自治大学校で1年間過ごす機会を与えられていることに感謝し、全力で業務に取り組み、自治大学校及び自治大学校で研修を受ける方に少しでも貢献するとともに、様々なことを吸収し、派遣元に戻ってからの仕事に役立てるようにしたいです。

(T・A)



「機界戦隊ゼンカイジャー」の自治大学校をロケ地にした回のワンシーン